

サイドバイサイド



【みんなですすめよう男女共同参画】

## 「男性にとっての男女共同参画」

男女共同参画というと多くの方が「それは女性のためのもの」と感じるかもしれませんが、男性にとっても重要な事だと思います。

例えば、こんな経験はないでしょうか。

▶ 育児休暇を取りたくても「奥さんがいるのに何で君が？」と言われ取れなかった

▶ 「男は弱音を吐くべきでない」との思いから、悩み事を相談できずにいた

「男性だから」という意識が、あなた個人にとっても、社会全体にとっても重荷になっていることがあるのではないのでしょうか

### 固定的性別役割分担意識

「男は仕事・女は家庭」等のように性別を理由として役割を固定的に分ける考え方のことを「固定的性別役割分担意識」と呼んでいます。女性が「固定的性別役割分担意識」によって社会進出を阻まれてきた、ということはよく言われていますが、男性も、「男は仕事」、「男は強くなければならない」など、性別による役割の固定化を受けているといえます。

### 「男女共同参画社会」のめざすもの ～男性にとっても暮らしやすい社会を

私たちの目指す男女共同参画社会とは、男性だから、女性だから、ということではなく、ともにその双方の人権を尊重しつつ責任を分かち合い、個性と能力を発揮することができる社会を目指しています。男性自身の、男性に関する「固定的性別役割分担意識」を解消できれば、男性がより暮らしやすくなる社会を築いていけるのではないのでしょうか。

## 人権 それは 愛

問合せ／教育文化振興課 ☎ 990-9011  
企画財政課 ☎ 991-1815

## 「子どもからのSOS」

子どもの「いじめ」の実態は様々です。最近では、心理的、物理的ないじめに加え、インターネットを悪用するなど、次第にエスカレートしていく傾向にあります。いじめは、それが原因で不登校や傷害事件、さらには自殺にまで至る場合があり、重大な人権侵害であるという認識が必要です。

いじめにあった子どもは、自分に非があると思うようになり、その後の成長に悪影響を及ぼす可能性もあります。さらには、いじめた側の子どもたちや、いじめを見てもみぬふりをした子どもたちも、その後の成長の中で自らが行ったことを振り返り、苦しむこととなります。いじめは、被害者はもちろん加害者も傍観者をも不幸にするのです。

また、いじめは、当人同士での解決が困難であるにもかかわらず、子どもは周囲の大人に対して、なかなか声を出して相談できないものです。

大人は、子どもからのSOSを見逃さないよう、子どもたちの日常生活に気を配ることが重要ではないのでしょうか。

埼玉県では、「すべての県民がお互いの人権を尊重しながら共に生きる社会」の実現に向けて、県、市町村はもちろん県民総ぐるみで、「人権尊重社会をめざす県民運動」を展開しています。

8月は「人権尊重社会をめざす県民運動強調月間」です。